

世界最高水準のツキ板製造技術で企業の想いを伝える ～北海道北三株式会社（札幌市）～

世界最高水準のツキ板製造技術を持つ、北海道北三株式会社（以下、同社）の事業をお伝えするとともに、同社の技術と総合商研株式会社のレーザー加工技術が融合して進められたプロジェクトについて紹介します。

【経営のポイント】

- 銘木の調達力と加工技術の結集から生み出される「信用」・「信頼」・「安心」
- 総合商研(株)と連携して生み出された永浜クロス(株)の創業記念品
- 各社の強みを活かした企業間連携プロジェクトを通じて企業の想いを伝える

世界最高水準のツキ板技術

ツキ板とは木材をスライサーで薄く切削したもので、「単板」とも呼ばれています（写真1）。そもそもツキ板は、普段われわれが生活する中で、多くの場所で目にしています。例えば、店舗・施設の天井・壁面・床面のほか家具などが代表例といえるでしょう。建築資材としてのツキ板は、天然木よりも反りが少ない一方で、それと同様の風合いを保つことができます。そのため、ツキ板は機能面と美しさが両立できる資材として重宝されています。

同社は、親会社である北三株式会社（本社：東京都江東区）とともに、世界で最も薄い水準である厚さが0.2mmのツキ板を製造することができるメーカーです。本稿ではその技術力にクローズアップするとともに、同社の技術を活かしたプロジェクトについて紹介します。

写真1 銘木から作られたツキ板



（出所）同社内で筆者撮影

技術が生み出す「信用」・「信頼」・「安心」

同社グループでは世界中から最高品質の銘木を調達しています。その中でも、同社は北米産の広葉樹を主に取り扱っています。広葉樹は夏に成長し、秋から冬にかけて落葉します。落葉した樹木は水分量が少なくツキ板の原木として適しているため、銘木の調達は冬季に行われます。筆者が1月中旬に同社を訪れたところ、「今が調達のピーク」と石川社長が話していました。

写真2 ツキ板の製造工程（後述する夫婦ポプラの木）

伐採した夫婦ポプラの木



（出所）同社提供

切削に向け原木を整える



ツキ板をMDF材に貼り付け



質の高い銘木は世界中で需要が旺盛ですが、同社では独自のネットワークを活用することでより品質が優れた銘木を調達することが可能となっています。調達した銘木を加工する工程の中で、最も重要なスライスの工程では、機械の刃の当て方に熟練の技術が求められます。僅かなズレなどがあれば、ツキ板の厚みが不均一になるなど、品質に大きく影響を及ぼすためです。海外でもツキ板を製造する技術はあるようですが、同社ほど薄く削ることは困難です。そして、ツキ板をMDF材やベニヤ板などの基材に貼り付けする作業もまた、隙間や重なりが無いようにするのはとても難しいようです(写真2)。

昨今、様々な業界・分野で機械化が進んでいますが、ツキ板の製造工程の多くでは、職人の技術力が求められます。そのため、石川社長は「1人前になるまで10年くらいはかかる」と話します。結果として、その技術力の高さから生み出される「信用」・「信頼」、そして「安心」が同社製品の礎となっています。

各社の強みを活かした企業間連携プロジェクト

カレンダー立てを通じて永浜クロス株の想いを伝える

同社のツキ板技術をヒントに、企業が連携しそれぞれの技術が融合して、あるプロジェクトが始まりました。そのプロジェクトは、内装資材大手の永浜クロス株式会社(本社：札幌市)の創業記念品の作成です。

2024年、永浜クロス株が、倒木の恐れがある本社敷地内の木を伐採する計画を立てていました。その木は永浜クロス株の創業当時から植えられていた2本の「夫婦ポプラの木」(写真3)。

ちょうど永浜クロス株が創業60周年を迎えることもあり、伐採した「夫婦ポプラの木」を活用した記念品を作成することとなりました。その記念品はツキ板技術を取り入れたカレンダー立て。ツキ板からカレンダー立てを作成したのは総合商研株式会社(本社：札幌市)で、3社が連携してプロジェクトが進められました。

写真3 永浜クロス株と夫婦ポプラの木



(出所) 永浜クロス株ホームページ

総合商研株との技術の融合

総合商研株は道内大手印刷業者として商業印刷や年賀状印刷を生業とする企業です(写真4左)。札幌市民にはお馴染みの、情報誌「ふりっぱー」(写真4右)を編集・発行する企業でもあり、販売促進ツールとしてのポップや什器、看板などのサイン事業なども手掛けています。

写真4 (左) 総合商研株の札幌工場、(右) 情報誌「ふりっぱー」の表紙



(出所) 総合商研株内で筆者撮影、総合商研株ホームページ



カレンダー立ての作成は、総合商研㈱が持つ「レーザー加工機」が活躍しました。レーザー加工機は木材のみならず、アクリル板や紙などもカットすることが可能で、総合商研㈱が保有するレーザー加工機の規模だと道内では限られた台数しかありません。実際に、レーザー加工機で作られた製品をみると、例えばアクリル板であれば断面が滑らかな仕上がりになるほか、細かなデザインを描写することもできます。またレーザーの当て方を変えることなどで、ペーパークラフト向けのハーフカット（はさみを使わず手で切り取ることができる）加工もできます（写真5）。

写真5 総合商研㈱のレーザー加工機で作成した製品

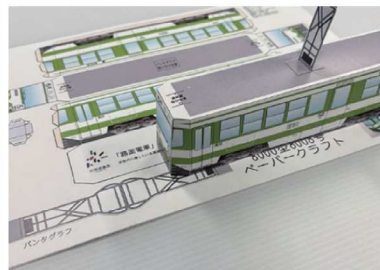
土産向けに加工したアクリル板



外国人旅行者に人気のカプセルトイ



路面電車のペーパークラフト



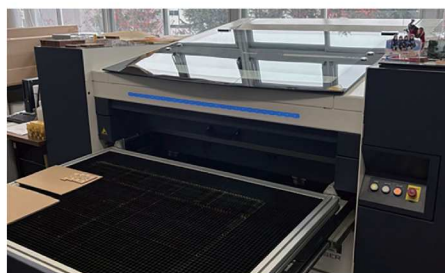
(出所) 総合商研㈱内で筆者撮影

カレンダー立ては、完成までに正味2ヵ月ほどを要し、主に永浜クロス㈱の取引先へ配付されました。実際に、「夫婦ポプラの木がカレンダー立てに生まれ変わったことに反響をいただいています」と総合商研㈱の戦略マーケティング部・押味部長が話していました。なお、このカレンダー立ては、写真立てとしても活用できるよう工夫が施されています。また、筆者が訪問した時点で完成から半年ほど経過していたものの、カレンダー立てからは木特有の香りを感じ取ることができました（写真6）。

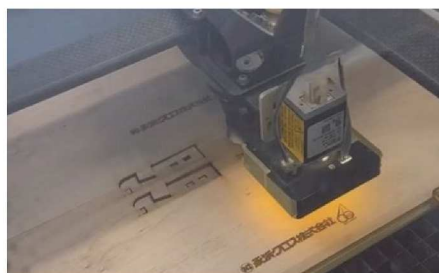
それぞれの企業が持つ技術を融合することで、妙味にあふれた記念品を作り出す本プロジェクトは成功裏に幕を閉じました。このプロジェクトでは、企業間の連携によって永浜クロス㈱の想いをつなげることができた事例といえるでしょう。（小野 公嗣）

写真6 カレンダー立ての製造工程

使用したレーザー加工機



レーザーでカットしている(煙で少し雲っている)



完成したカレンダー立て



(出所) 総合商研㈱内で筆者撮影

【北海道北三株式会社 会社概要】

本 社	札幌市西区発寒7条11丁目5-21
	TEL:011-664-3200 FAX:011-663-4543
設 立	1946年8月
資 本 金	4,100万円
代 表 者	石川 泰成
従業員数	35人
事業内容	木製品製造販売(天然木単板・化粧合板等)
U R L	http://www.hoxsapporo.co.jp